

平成22年度 第1回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成22年6月2日(水)
- 2 開催場所 中央生涯学習センター5階
人材かがやきセンター研修室
- 3 出席委員 15名
廣瀬委員長, 熊本副委員長, 田中委員, 小林(修)委員, 小林(利)委員
櫛淵委員, 山野井委員, 大出委員, 塚田委員, 青木委員, 岡村委員, 柳田委員
石澤委員, 磐井委員, 真壁委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
 - (1) 協議事項
・今後の成人教育について(第4回)
- 7 その他
 - (1) 文化振興基本計画の見直しについて
 - (2) 第24回全国スポーツ・レクリエーション祭
「スポレク“エコとちぎ”2011」の概要について
- 8 閉会

9 発言の要旨

廣瀬委員長	こんにちは、22年度最初の委員会でございます。今年度が皆様と策定しました地域教育推進プランの実質的なスタートになります。事務局の方も人材かがやきセンターを設置するなど意欲的に進めているようでございますので、委員も一体となって宇都宮市の社会教育の推進のために力を注いでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
伊藤教育長	【あいさつ】
事務局	【資料について説明】
廣瀬委員長	ありがとうございました。全般的にA3の大きな資料を見て分かるように、前半のほうはこれまで数回に渡りまして、本委員会で成人教育の問題につ

いてグループでの話し合いや、会議で出たさまざまな議論をまとめていただいたものです。ほとんど私たちが発言した内容をまとめたものです。今日は成人教育をどう充実させていくか具体的な方策について議論していきます。特に社会教育の中心をなす成人教育についてこうやって議論することは社会教育委員の世界ではめずらしいことでもありますし、重要なことでもあります。教育長がおっしゃったように個人の成長も大切だけれど、宇都宮市の地域づくりをこれからどうするのか、そのことに社会教育がどう貢献できるのかを中心に考えていきたい。そんな意味で大人の行動の基準のひとつとして“イキな宮人づくり”があります。あまり大人に強制するような形ではなく、こんな形がありますよというモデルを提案する。それで最初に事務局の方から説明していただいたA3の答申のイメージあるいは答申素案の項目や構成についてご質問やご意見があれば先に取りたいと、その後に具体的な方策についての議論に入りたいと思います。文言や、言葉のありかたについてご意見・ご感想を聞きたいのですが。

塚田委員

前回は違和感があるということでイキな宮人のイキはどういうことかなと、6ページに説明がありますよね。キャッチコピーみたいに使うならその下に注意書きとしてイキな宮人と入れるのでしょうか？そうでないと一般的な、粹というのは意味が違うのではないのでしょうか？

廣瀬委員長

事務局の方から何か回答があれば。素案のほうには書いてあるのですが。全面的に出すにはちょっと気を付けていただきたいと。

事務局

先ほどのご意見ですが、全面的に成人教育として周知をしていく中で先ほどの素案の方に載っている3点のイキな宮人とあわせてキャッチフレーズのような形で出していけたらと思っております。

廣瀬委員長

ありがとうございました。塚田委員そういうことでご理解いただければと思います。私も“イキな”といわれるとどういう意味なのか必ず一般市民の方はなじみがなくイメージが沸きづらいと思いますので、丁寧に普及していきたいと思います。他にご意見ご感想はありますか？

事務局

逆にイキな宮人のところについて事務局として3点掲げておりますが、委員の皆様で、もしそういうイメージを持たれていけばご意見をお聞きかせていただければと思います。

廣瀬委員長

6ページにあるような事務局が考えた“イキ”は思いやりを持ってさりげなく立ち振る舞えるやさしい大人、一般常識や社会情勢に基づいて行動できるカッコいい大人、現代社会を生き抜く生活力・適応力を持ったかしこ

い大人だと提案していますが、みなさんはどうお考えですかということ
です。

いかがでしょうか。少し抽象的な言葉でも結構ですので“イキな宮人”と
いった時みなさんどんなイメージを持つか、校長会の方3名出席なのでご
意見ありますか。

田中委員

“イキな宮人”というのは粋だなという発想を持っているならば一番上だ
けでいいのかなと。要するに思いやりをもってさりげなく立ち振る舞える
やさしい大人。これは粋だなと思いますが、2番目からは現実的になる。
2番目3番目は「こうなれよ。」というようにとれる気がした。一番上はさ
らっとしていてなるほどと思います。

廣瀬委員長

貴重なご意見ありがとうございます。2番目3番目になると思わず出てし
まったという感じもしますね。
他にご意見いかがでしょうか。

小林（修）委
員

前回休んでおりました。“イキな宮人”を初めてみたのですが、これまで市
長がことあるごとに必ず人間力を使われているのですが、そこで関連付け
なくてはならないだろうと思いました。人間力の説明が1ページ目にあっ
て、自己の内面をはぐくみ、自分自身だけの成長にとどまることなくその
気付きや学びを多くの人に伝え、明るく豊かな社会の創造に寄与する力。
非常に難しい内容だなと思ったわけです。先生方からでましたように素朴
にとらえると人間力といった場合に学校教育の方では生きる力を使ってい
まして、私はそれに近い形でとらえています。市長はがまんとおっしゃ
います。人間力イコール我慢とは思えないわけですが、そういうことに関
係があるのとらえている。そのあたり、何か資料を作る時に考えがあった
のでしょうか。

事務局

“イキな宮人”という場合で人間力が備わっていると前提に考えていき
たいと思っておりますが、逆に人間力が滲み出るような表現にしたほうがよ
ろしいということでしょうか。

小林（修）委
員

そういう意味ではなくて、その関係について整理が必要ではないかと思っ
たわけです、普段市長がかなり使っているのです。

事務局

そういった点は整理しておくべき項目かなと思いますので検討させていた
だきます。

廣瀬委員長

市長ががまんと言うのは成人式のビデオですよ。あれは明らかに若い人
に対して言っている。我々中高年に対して言っているイメージではない。

若い人に対して人間力は我慢。我々も我慢しなければいけないことがいっぱいあるのですが、市長の言う人間力と関連性をきちっと整理しておくことが必要だと思います。

一体化した行政の中で矛盾のないような整理の仕方は必要だと思います。その他ございませんでしょうか。

小林（利）委員

去年の事情はちょっと分かりませんが、とりあえず国民的な課題というか規範意識というのは色々なところで出てきますね。そういう問題というか、成人教育とは、考え方として自己実現から、社会づくりに動いている。割り切って一番上だけでも良いのですが、これからの大人像という時に、うまく言えませんが、社会に関わる中で、どうしてもその課題になる規範意識、一般常識を期待したい部分もあります。

廣瀬委員長

私も同感です。よく規範意識というと子どものうちから学校で教えろといういい方をしますね。でも、今回の答申はむしろ大人がそれをちゃんと持たなきゃいけないという意識ですね。これまで思いやりとか、一般常識とか、ちゃんと行動できる適応力、というのはすべて学校に振られてきたというのもある。それはそうではないだろうと。大人にまず欠けているものじゃないか。大人がしっかり持ちましょうと自ら宣言した答申になると思います。

その他ご意見伺いたいのですが。

石澤委員いかがですか。親学習プログラムで成人教育に実際に関わってこられて最近の親を見て規範意識とかですね、あるいは成人教育関係の方針の意味でご意見をお伺いできれば。

石澤委員

グループワークをした時にもなんとなく自分でこんなような意見を言った記憶があるのですが。一般常識や規範意識といった時に、各々が思っている常識がたぶん違ってしまっていて、私はこれでいいと思っていたのですが他の人と話してみたら違ったというようなことがあります。自分も一般常識があると思っていないので、常識的な人間でない自分が発言しているのはなんですが、親学習プログラムで、誰かと話をしたり、グループワークのような形で、やらせていただいています。他の方の意見を聞いたりすることによって、整えられていたり、そういうことだと思うことがあります。

廣瀬委員長

ありがとうございました。親学習プログラムを通していろいろ見えてくるものもあったと思います。

磐井委員は、保育園の子ども達から透けて見える宇都宮の大人の姿を数多く見ていると思いますが。そのあたりからご意見いただけますか。

磐井委員	率直に言うと、感謝の心がやはり一番です。昔の保護者と比べますと、当たり前で通っているということ。そんな感謝というのはいくつになっても大切かなと思います。
廣瀬委員長	この“イキな宮人”の中に感謝の心も入ったらどうかという意見だったか と思います。ありがとうございました。 その他にご意見はありますか。 PTAという組織から見てたくさんの大人と付き合うことが多いのではないかと思うのですが、学校にもっとも近くにいる成人教育団体ですね。その視点からご意見いただけますか。
青木委員	PTAを運営していく中で人との交流というか、相手の話をきちんと聞いてそれを判断する力が不足しているのかなと思います。自分の気の合う人とは話をするけど、全体の話聞いていない。相反する話はもう受け取らないということで最も基本的な人とのコミュニケーションだったり、交流であったりする部分が今足りない部分なのかなと思います。そういったことをきちんとお互い話し合い、PTAでこういうふうと考えて、やっぴこうと思うという話を聞いていただくと、クレームをつけてくるような保護者の方も理解を示していただけることもあるので、今は忙しい、自分の子どもだけがかわいい、全体を見ていない、という人であってもきちんと話し合う機会が少しでも増えていくことによって、方向性を見出せるのかなと今現場で感じているところです。人と人との繋がりをつくる機会を多くする内容があると、どんどん変わっていくのかなと思っています。
廣瀬委員長	ありがとうございました。人と話をする力、コミュニケーション能力が足りないのは、子どもではなく大人だと。
岡村委員	私が特にキャッチコピーの“イキな宮人”づくりで思ったのは、先ほどの田中先生のご意見に賛成ですけども、2番目3番目は、くどいかなと感じまして。1番がすごくすっきりしていいと思います。私が地域活動をしている中で非常に感じますのは、私は富士見地区ですが、コミセンの利用団体のサークルが38団体、利用団体として登録している団体は63、合計101ですけども圧倒的に女性が多いということです。男の方の参加が非常に少ない。また、サークル38の中を見ますと、趣味を活かしているサークルがほとんどで、そういったサークルには積極的に参加しますが、地域の行事など、社会参加という意識がちょっと薄いのかなと感じます。例えば、退職をされて時間には余裕のある方などは、特に小学生、子どもとそういう年配の方との交流は非常に大きな教育的価値があり、地域の活性化にも繋がりますので、社会参加を積極的にしてほしいという促す、呼びかけることが非常に大切なのかなと感じます。

廣瀬委員長 ありがとうございます。他にもう少しいかがですか。
“イキな宮人”作りには色々な思いがそれぞれありますがいかがですか。

大出委員 いろいろな年代や職業の方に接していると“イキな宮人”というのは3
段目の適応力を持ったかしこい大人が一番ピンとききました。

廣瀬委員長 それぞれの経験を持っている方々が、それぞれ思いを持って“イキな”と
いう言葉にイメージを持たせているのですが。
もう一人ご意見いただきたいのですが。

櫛渕委員 私も岡村さんが言ったことをよく感じます。私の地区も毎日腹立たしく感
じるほどです。私たちの地域活動は身近な地道な感じで子ども達に協力す
ることです。一つの例をあげますと最近、5月の柏餅の柏の葉の由来を子
どもたちに話しました。子どもに、家に帰ってお母さんに教えてあげてね。
という、賢い子は非常に感心してずっと聞いていました。もみじの葉は
秋になると紅葉して落ちるけれども、柏の葉は茶色くいい色ではないが紅
葉して、けれどすぐには落ちないということ。いつ落ちるかという、新
しい芽、子どもが出来てから初めて葉が落ちる。そういう形で新しい子ど
もがすくすくと育つように、5月の節句には柏餅を食べるということ、そ
の他にも色々な話を続けましたけれども、子ども達が関心して聞いている
ことがうれしく感じます。私もこの思いやりを持ってさりげなく立ち振る
舞うということよりも、熟年から感じますと生活力と適応力を持ったかし
こい大人ということのほうがピンとくる感じがします。

廣瀬委員長 ありがとうございます。それでは、皆様から“イキな宮人”についてご
意見いただいたと思いますが、今日のもう一つの議論の柱は、今後の成人
教育についての事業展開と具体的な方策について議論するということで
す。それで、具体的にどうするかとそういった適応力やあるいは思いやり
をもった人間になるためにどんな学習機会を作っていけばいいのか、それ
について議論していただきたいのですが。
ちょっと大枠な感じなので事務局から何か提案事項があればそれを元に話
をしたいと思います。

事務局 考えられる取り組みについて、1枚のシートをご用意しました。こちらを
参考にさせていただいてご意見の方を出していただければと思います。事務
局でお配りしておりますのでよろしくお願いたします。
現段階での事務局の参考案でございます。一点一点事業のレベルなども、
内容が分かるものから抽象的で一方的なものまで様々ございます。委員の
みなさまの参考にしていただきまして活発なご意見をいただけますようお

願いたします。

廣瀬委員長

ありがとうございます。例えばこんな事業をあげています。特に方策1の2番目に町のマナーカレンダー、町のマナーの悪いところを撮影してカレンダーにする。ある町で実際にやっています。マナーの悪いところを撮ってカレンダーにして毎月見る。そういう風にしてマナーをよくしていこうとやっていることもあります。たくさん出してほしいので。いつものように小グループになってください。

【グループワーク】

廣瀬委員長

ありがとうございました。活発なご意見が出ていいですね。意見をきちっと言っていただいて。

事務局

どなたかから意見を聞けたらと思います。

真壁委員

6つの方策をいただきましたが、皆さんからいただいた意見として対象を絞るべきではないか、壮年期、成熟期、円熟期とありますが、対象を絞ったPRなり、事業展開をすべきではないか。それから、一部の意見ではありますが今の時代は個人中心主義、核家族中心という流れですので子どもさんやお孫さんを介して学習機会を一緒にセッティングして、幼稚園なり保育園、小学校なりで成人教育向けの教育をしたらどうかという意見もできました。

私なりの意見ですけれども、何も“イキな宮人”でなくてもいいのではないかと、私個人の考えですけれども「あんたはイキな宮人ですね」と言われたくない。みんなから言われると嫌ですけれども、いいおじいちゃんだねと言われれば十分。別に宇都宮のイキな人間じゃなくていい。

廣瀬委員長

そもそも、成人教育の特徴を出すと多くの市民からある程度の反発があるものだと思います。そもそも成人教育に対して行政が何かを答申するのも反発するのは正常です。それでも尚且つ我々は必要性を感じてこれをしているのをご理解いただきたいと思います。

では、次の案件のその他の1について事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

今回は頭出しということで次回以降に文化振興基本計画の中間見直しについてご意見をいただきたいと。今日、基本計画を読んで、これについて意見を言っていただきたいということ。

気になるところだけ次回までに見ていただき、考えがあるところについて

それぞれ意見を伺いたいと思います。ぜひ見ておいて下さい。

事務局

次回までに進捗状況の資料もお渡しします。

廣瀬委員長

全部は大変なので、自分の気になるところでいくつかの項目に絞って意見
いただければ十分だと思います。

続いて、その他の2について説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

ありがとうございました。これについてご質問・ご意見ありますか。

ほかに事務局から何かありますか。

事務局

小中一貫教育と地域学校園について、その他事項の追加がありましたので
ご説明します。

【資料について説明】

廣瀬委員長

ありがとうございました。非常にユニークな取組でそれだけに関係者の方
も苦勞すると思いますが、効果を上げていくよう社会教育委員でもがんば
っていきたいと思います。

事務局

最後に、次回の社会教育委員の会議の日程でございますが次回は7月上旬
を目途に調整を行いたいと思います。

廣瀬委員長

以上を持ちまして本日の会議を終了させていただきます。

【グループワークで出た主な意見】

- ・ 日時や場所の設定など、年齢や対象を絞った取り組みの展開が必要
- ・ 学校、保育園、幼稚園における、授業参観やイベントなどと併せ、子
どもを媒介として、保護者（両親・祖父母）の学習機会を設ける。
- ・ 子どもによる、大人（親）の評価制度
- ・ 子どもから見た理想の大人像
- ・ 男性が受けやすい講座の工夫が必要
- ・ 託児施設などを整備し参加しやすい環境づくり
- ・ 言葉づかい、あいさつなど基本的なテーマを盛り込むべきだが、それ
だけでは人が集まらないので、健康づくり（認知症予防）や料理など
の人気講座と抱き合わせで成人教育を展開する。